

第8回イチカレ（職員向けシンポジウム）

平成30年10月4日（木）

やさしい中核市を目指して

～市民のため、まちの未来のため～

いずみ

泉

ふさ ほ

房穂

明石市長・弁護士・社会福祉士

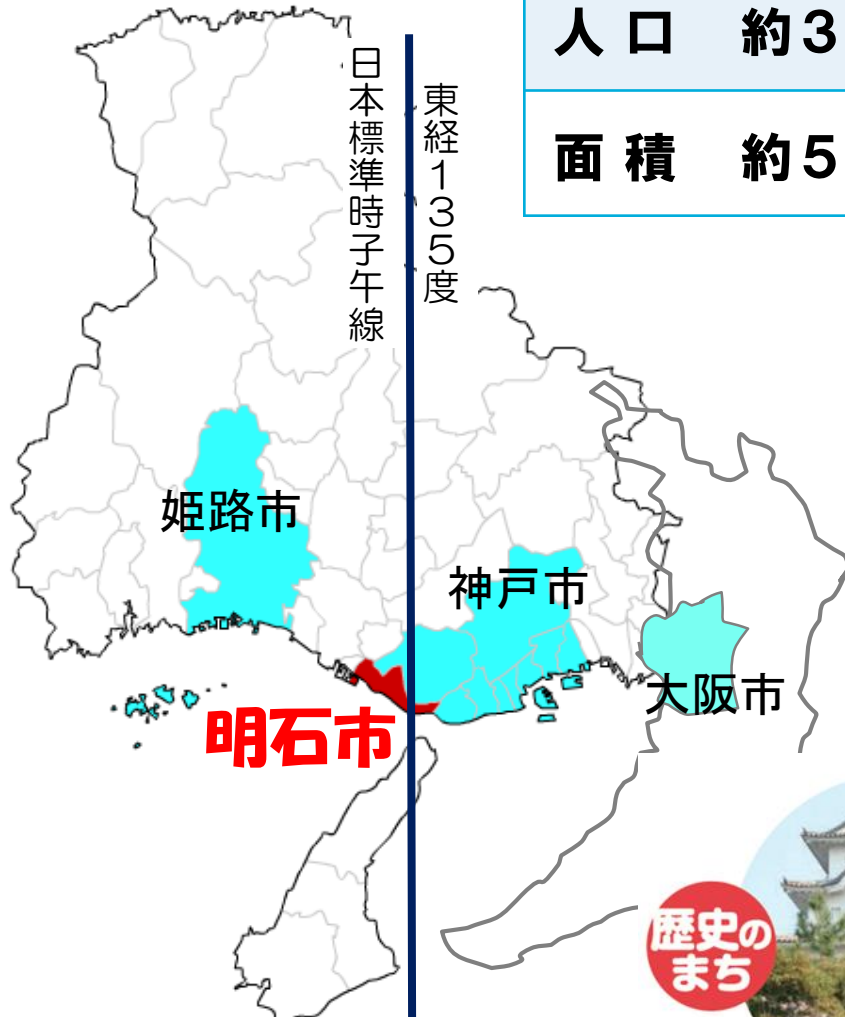
自己紹介

泉 房穂(いずみ ふさほ)

- 1963年 明石生まれ
- 弁護士
- 社会福祉士
- 元衆議院議員
超党派での議員立法制定に奔走
- 元NHKディレクター
- 2011年より明石市長（現在2期目）
- 柔道3段、手話検定2級、明石タコ検定初代達人



明石市の紹介

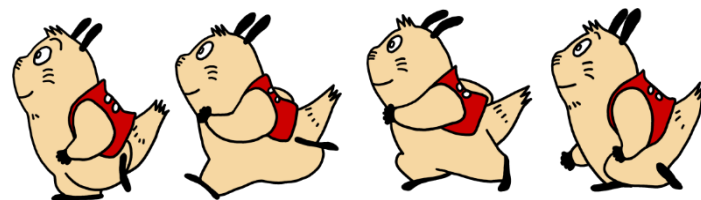


人口	約30万人
面積	約50km ²



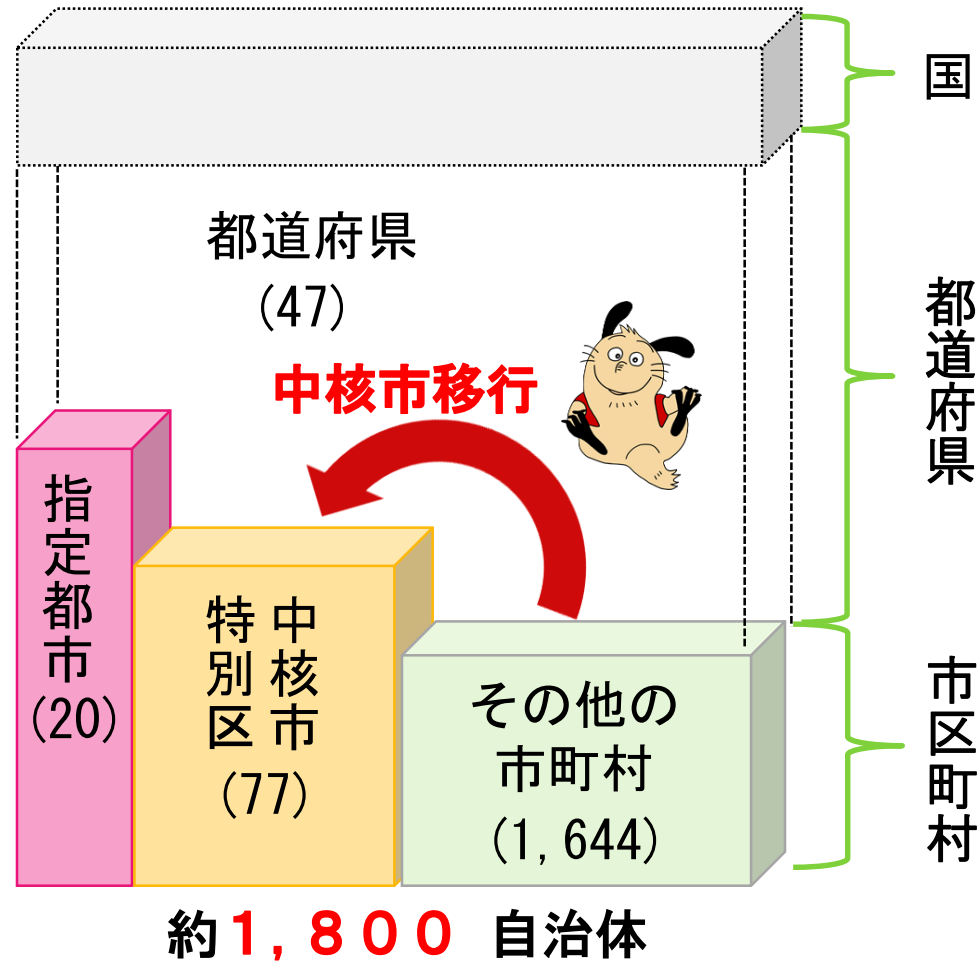
今日の講演の流れ

- 一 中核市の位置づけ
- 二 なぜ中核市になるのか？
- 三 中核市になるのは難しい？
- 四 中核市移行の効果
- 五 みなさんへのメッセージ



一 中核市の位置づけ

《現在の都市構造》



市民に最も近い基礎自治体は “市区町村”

市民サービス向上のためには、 中核市への移行が欠かせない

《市長選に立候補したときからの思い》



産経新聞 2011年(平成23年)3月1日 火曜日

中核市移行目指す

明石市長選 出馬表明の泉氏公約

統一選
2011

4月の統一地方選で行われる明石市長選で、出馬表明した元衆議院議員で弁護士の泉房穂氏(47)が28日、市役所で記者会見し、明石市を中核市に移行させるこ

とを自指すなど公約を発表した。

泉氏は「人口約29万人の明石市を政令指定都市に準ずる中核市に移行させることを目標に活動する」と表明、中核市の条件を現行の法定人口「30万人以上」から「30万人程度」に緩和することを国に求める考えを示した。泉氏は「中核市として県から市に権限が移譲されれば、独自のまちづくりが可能になる。明石市のことば明石市で決めるべきだ」とした。さらに財政再建や教育改革など「7つの改革」を公約。市長給与の3割削減や中学校給食の実施など14項目を具体施策として掲げた。

明石市長選をめぐることは泉氏のほかに、元東播磨県民局長の宮野敬明氏(59)が出馬表明している。

二 なぜ中核市になるのか？

中核市に移行するのは、**市民のため**

▷ 県から約2,000の権限が移譲されることで、**パッケージでの施策展開**が可能になる

例えば…



明石市のまちづくりの基本理念

～こどもを核としたまちづくり～

1 すべての子どもたちを

誰一人として見捨てない ⇔ × 貧困家庭限定

2 まちのみんなで

行政や地域や市民みんな ⇔ × 親だけに責任

3 一人ひとりに寄り添って

こども目線 ⇔ × 行政目線や親目線



4 本気で応援

あれもこれも全部やる ⇔ × 予算の範囲内

(ワンストップ、チームアプローチ、アウトリーチ)

明石市のこども総合支援

虐待防止・社会的養育の充実

- 児童相談所の設置
- あかし里親100%プロジェクト
- 児童養護施設等と連携した養育支援

早期の気づきと支援

- 妊婦全数面接
- 乳幼児全数面接
- あかし版こども食堂

学びを応援

- 中学校給食の全校実施
- 30人学級の導入
- 本のまちの推進

子育てを応援

- 中学生までの医療費無料化
- 第2子以降の保育料無料化
- 大型遊具を備えた「あかしこども広場」

寄り添う支援

- 離婚前後の養育支援
- 児童扶養手当の実質毎月支給
- 無戸籍者支援



1 経済的負担の大幅な軽減

Point 

3つの“無料化”

所得制限なし！

- ① 保育料 → 第2子以降は完全無料
- ② 医療費 → 中学生まで完全無料
- ③ 遊び場 → 親子ともに利用料無料

関西初



明石駅前再開発ビル内
親子交流スペース「ハレハレ」

2 子育て環境の充実化

- ① 保育所整備→毎年1,000人の受入増
- ② 少人数学級→30人学級の段階的实施
(小1から)
- ③ 本のまち→図書館を明石駅前に新設



3 寄り添う支援

① 児童相談所の設置

法改正後初

② あかし版こども食堂

全国初

③ 里親100%プロジェクト

全国初

④ その他

- ・ 離婚前後のこども養育支援
- ・ 児童扶養手当の毎月支給
- ・ 無戸籍者支援

全国初

全国初

全国初

② あかし版こども食堂

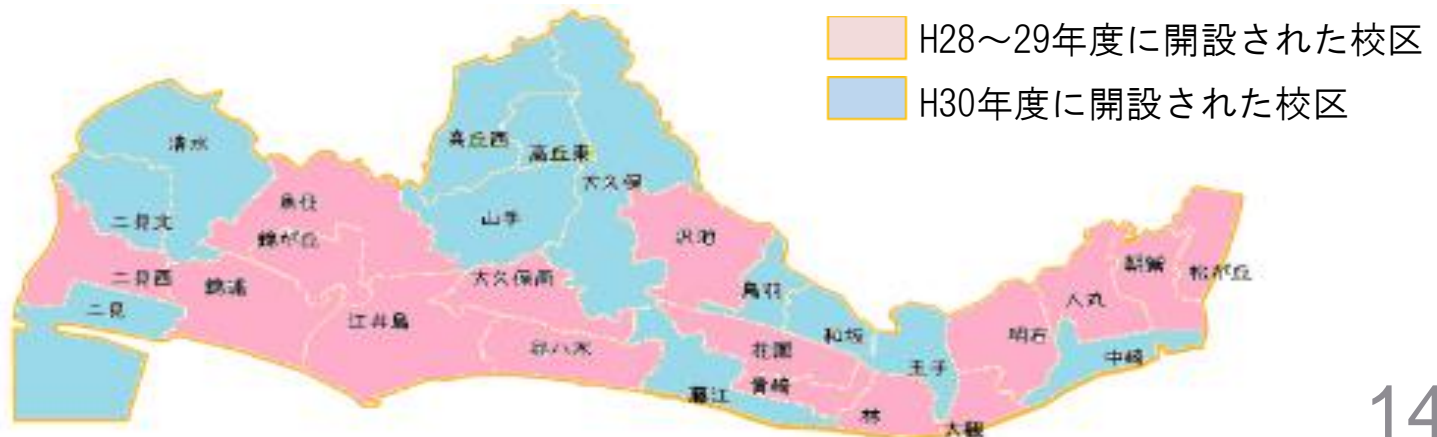
全国初

こどものみならず高齢者も

▷ 気付き・支援の拠点



市内全28小学校区37か所に設置



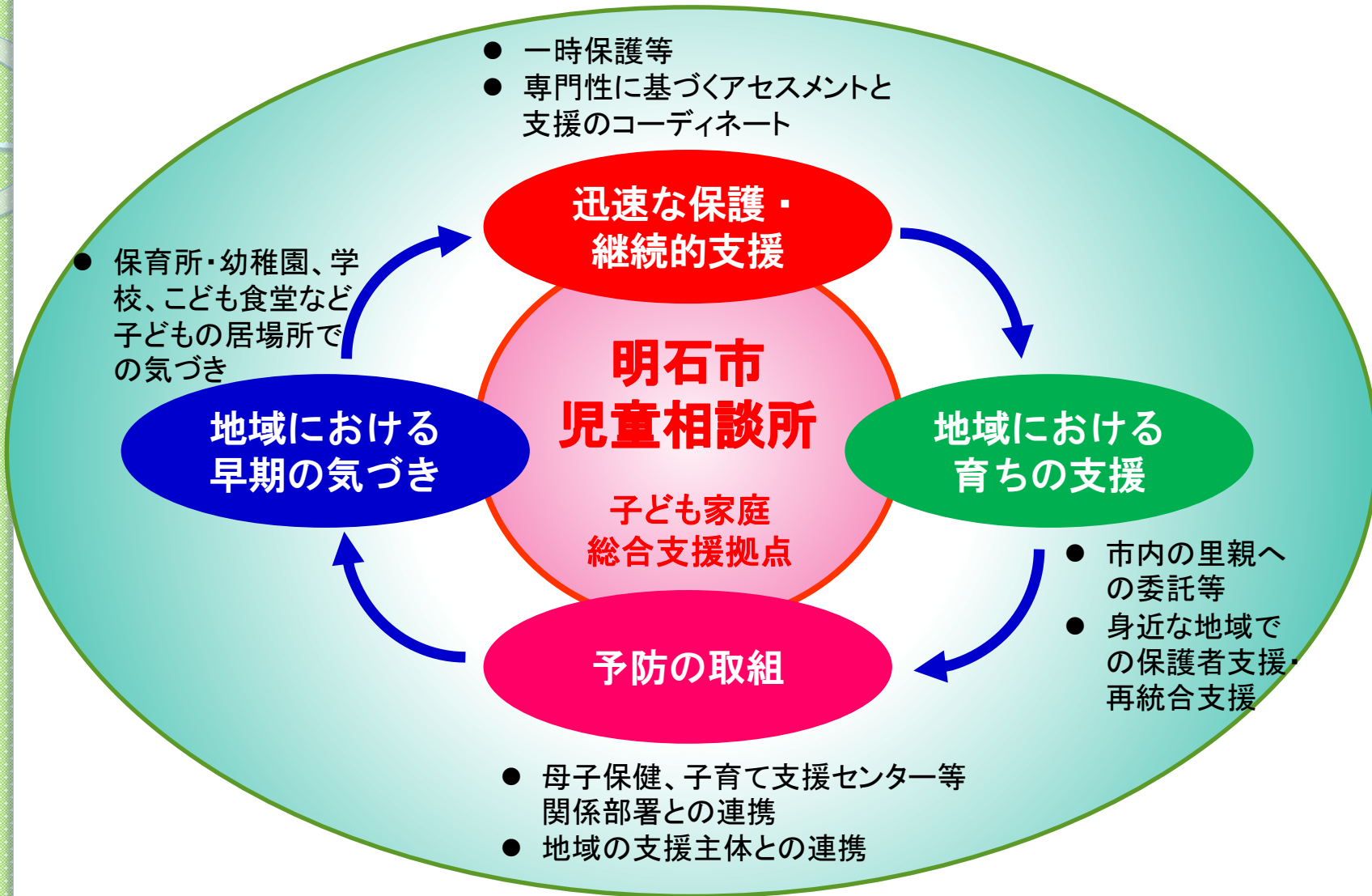
③ 里親100%プロジェクト 全国初



▷ 養子縁組に限らず、
ボランティア里親
(週末里親や季節里親)
など、より多くの市民に
協力いただける形を
イベントや**相談会**を
通じて紹介



児童相談所を核に、一貫したこども家庭支援を実施



その実現のためには、**中核市移行が必要** 16

三 中核市になるのは難しい？

1 “カネ”の問題

ランニングコスト

【歳出】 + 926, 599千円 … ①

※内、人件費（66人分）547, 800千円

その他、教職員研修費、軽費老人ホーム運営費 等

【歳入】 + 987, 399千円 … ②

※内、基準財政需要額の増 1, 653, 058千円

県支出金 △704, 968千円 等

② - ① = +60, 800千円 (H26試算)

イニシャルコスト（参考）



▶ 保健所の設置

（既存の市有施設を改修して活用）

▶ 動物愛護センターの設置

（市有の遊休地を活用して新設）

この2つの整備費用が**約7億円**

実際は、人件費の圧縮等により

ランニングコストがさらに下がる見込み

2 “ひと”の問題

保健所の職員（62名）



- ▶ 7名は、県からの派遣

（ 所長（医師）・保健師2名
薬剤師3名・臨床検査技師1名 ）

- ▶ 新規採用は、専門職24名

- ▶ 31名は、在籍職員を配置

平成28年度から県に派遣し、研修

他部署で人員削減に努め、
市の総職員数は増やさず必要な人員を確保

3 “責任”の問題

権限を持つてば…

▶ **スピード感**が生まれ、
仕事が進めやすくなる



▶ 10の金をもらい、
決められた10のことをやるのではなく、
9の金で、決められた5のことと
新しい4のことをやる

責任の重さ = やりがい



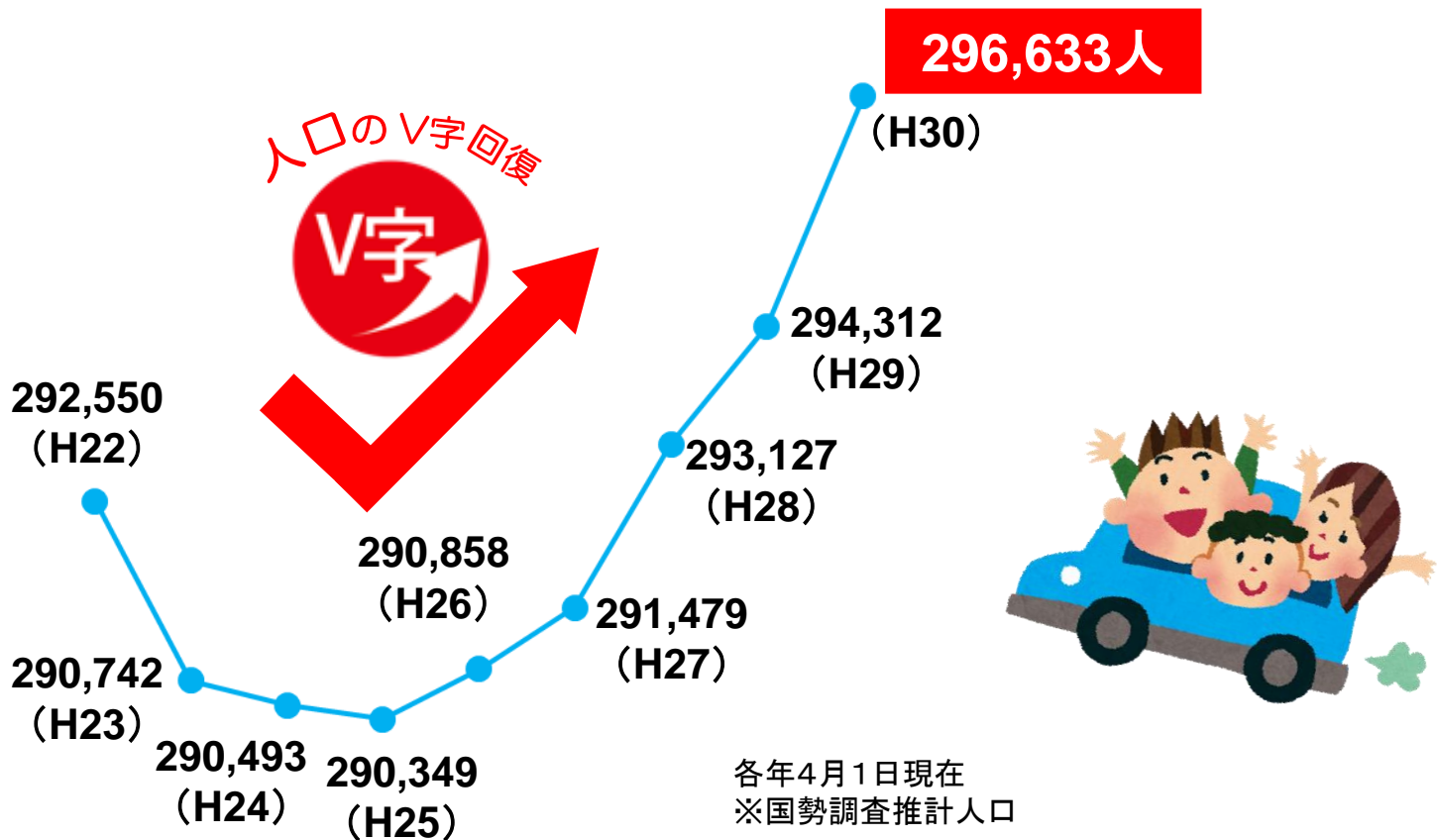
四 中核市移行の効果

今、明石が熱い！ 5つのV字回復 

- 1 来る人も ⇒ 交流人口 4 割増
- 2 住む人も ⇒ 定住人口 5 年連続増
- 3 赤ちゃんも ⇒ 出生数 3 年連続増
- 4 税収も ⇒ 市税収入 6 年連続増
- 5 まちの笑顔も ⇒ 地域経済の活性化

明石市の人口増の特徴

人口減少から一転して **5年連続増加**
平成29年8月には、**過去最高人口を突破**



大都市からの転入増が特徴 (神戸市や姫路市から大量流入)

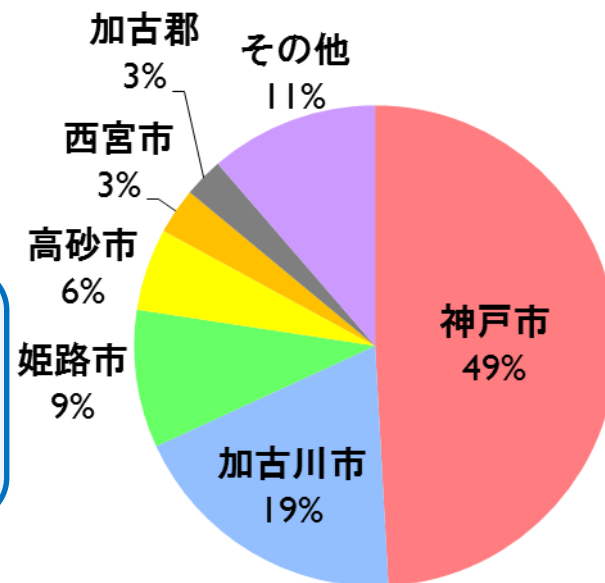
(単位：人)

明石市	神戸市	加古川市	姫路市	西宮市	尼崎市
+2,380	-3,470	-1,390	-1,512	-563	-416

(兵庫県内の主な市
：平成29年1～12月の人口動態)

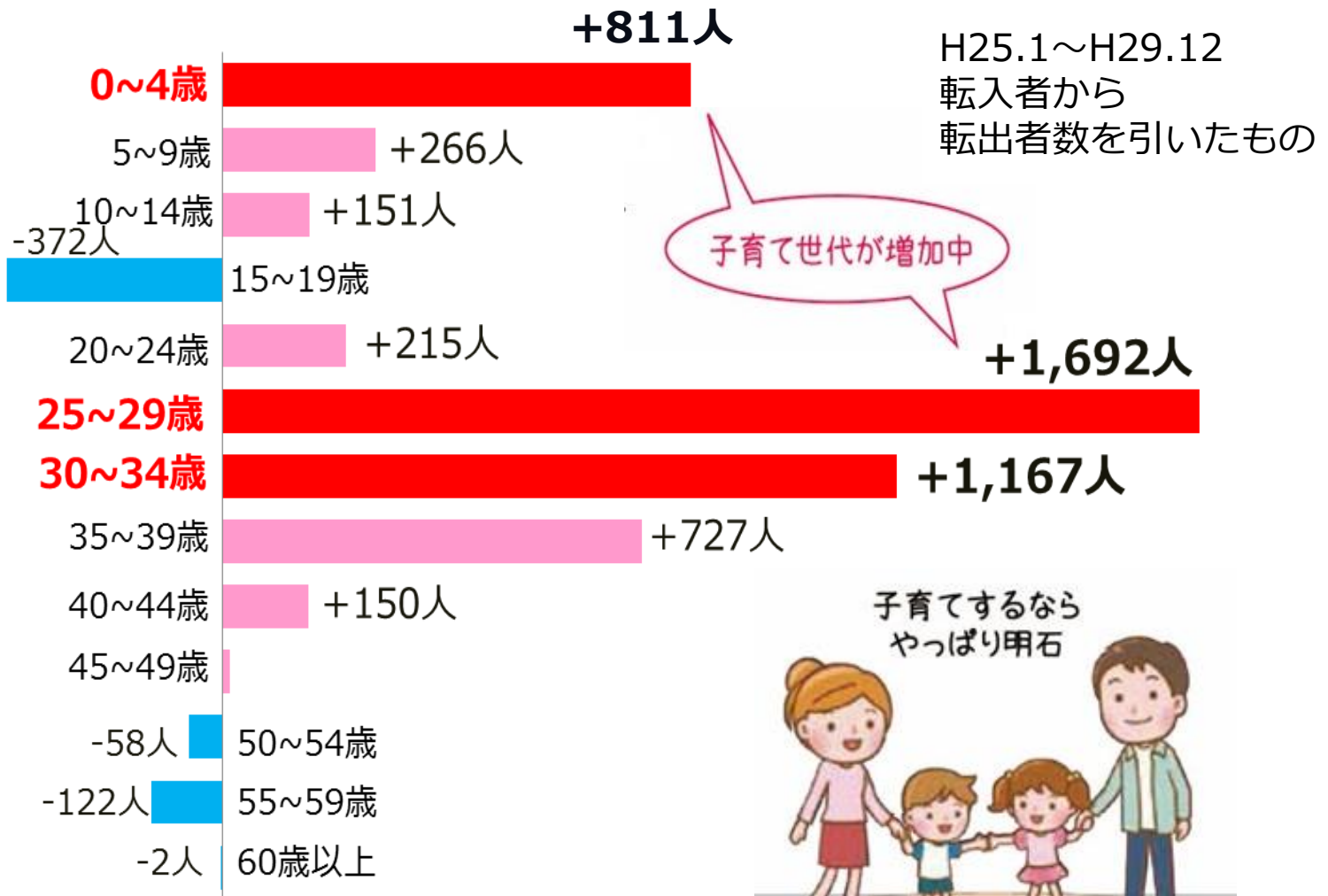
TOPICS

※平成29年に毎月連続で人口が増え続けたのは、県内で**明石市だけ**
(明石市でもH5以来、24年ぶり)



(明石市への転入者の割合：平成29年)

しかも、子育て層ばかり！



まちの好循環システムの確立へ



これぞ **“アカシノミクス”**



法政大学
湯浅 教授

五 みなさんへのメッセージ

“3つの発想の転換”を！

① **上下関係**からの脱却

▷ 市民に近いのは、国よりも**自治体**

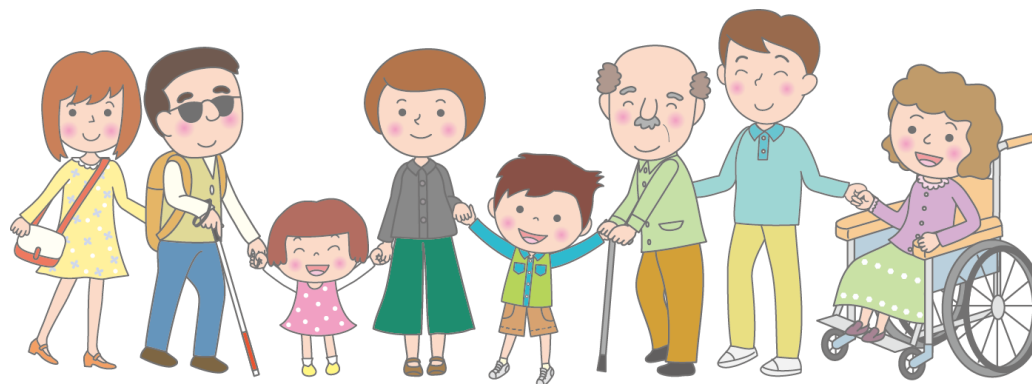
② **前例主義**からの脱却

▷ 昨日までと同じ**明日**ではない

③ **横並び主義**からの脱却

▷ 隣町と同じ**我が町**ではない

“やさしい社会” を明石から



“やさしい社会” とは・・・

お互いに 助けあい 支えあう

“あたりまえ” の社会

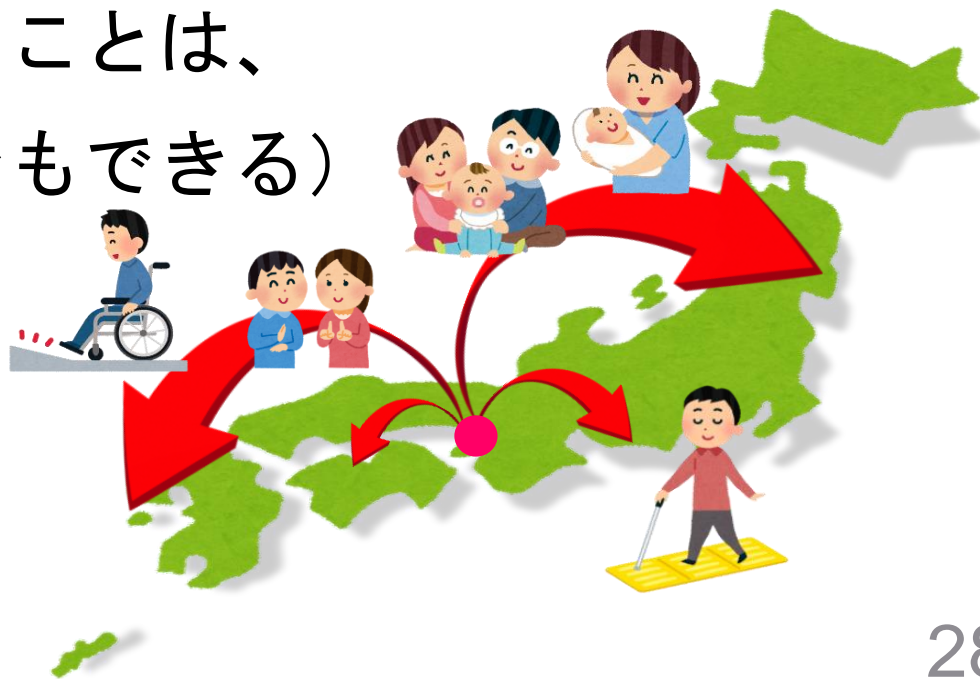
“明石から” とは・・・

① 国を待つことなく明石から

(市民により近い基礎自治体から始める)

② 明石から全国に

(明石市でできることは、
ほかの自治体でもできる)



そのために必要なのは・・・

① やさしさ

▷ 想像力、真摯に聞く姿勢

② かしこさ

▷ 洞察力、本質を見抜く力

③ ほんの少しの強さ

▷ 責任感、諦めない勇気

“公は尊い”

胸を張った仕事を



ご清聴ありがとうございました

